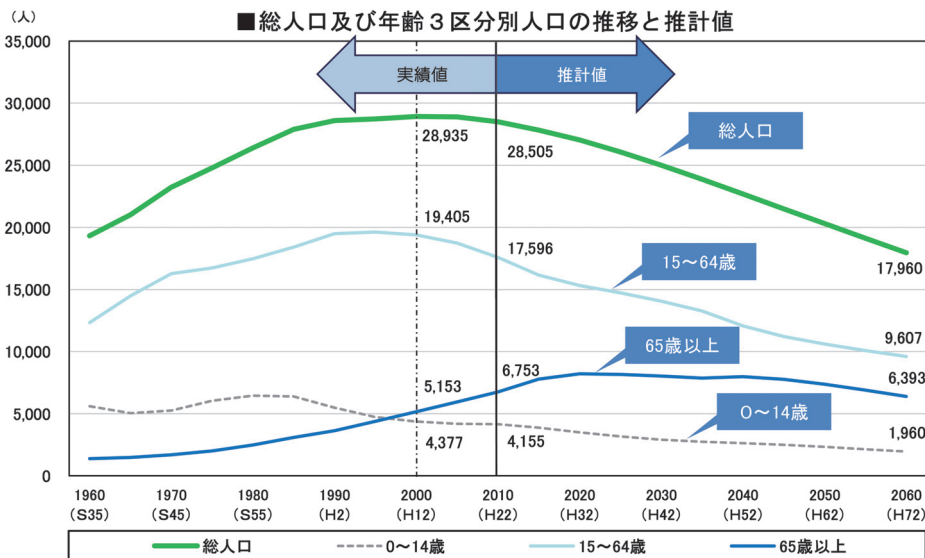


垂井町の現状を考える

国の推計によると、日本の将来人口は減少の一途をたどり、高齢化が進む一方、社会を支える生産年齢人口（15歳～64歳）は減少していきと予想されています。

本町でも、人口減少、少子高齢化が進み、人口は2000年の28,935人をピークに人口が減少し始めています。併せて15歳未満の人口割合と、65歳以上の人口割合は、1995～2000年の間に逆転し、少子高齢化が顕著になっています。



資料：国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所準拠推計値を使用

こうした中、町としての活力を維持・向上させるためには、ビジネスや観光などを通じて、他地域から人を呼び込み、交流人口の増加によるにぎわいづくりが必要です。

さらに、産業再生などを図り、雇用を維持・創出し、定住人口の増加を目指すことも大切です。

垂井町第6次総合計画の策定にあたっては、この人口減少問題を重要な課題の1つとして捉え、取り組んでいきます。

1/21(土)

第1回住民ワークショップを開催しました。

垂井町に住むみなさんが、日ごろ考えられていることをお話しいただき、よりよい我が町をつかっていくにはどうしたら良いかを考えるため、各地区から参加していただくワークショップを全3回にわたり開催しています。

第1回目は、垂井町の課題や地域の資源について、意見を出し合いグループごとに発表していただきました。

現在、町が抱える課題では、「空き家が増えている」、「子どもの遊び場が少ない」などの意見が、地域の資源では、「山や川の自然が豊かなところ」、「歴史ある場所や伝統の祭り」などの意見が挙げられました。

今後、回を重ねて議論を深めていただき、垂井町第6次総合計画策定に反映させます。

問合せ／企画調整課 企画係（内線289）



住民ワークショップの様子

シリーズ
新しい「まちの総合計画」
「まちづくりを住民のみなさんと」